

## 臨時科学推進専門部会・SSEP 戦略会議 議事録（案）

日時：2006年6月17日（土）13:00-16:45

場所：海洋研究開発機構東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）

地球内部分科会：小原 泰彦，廣野 哲朗，田村 芳彦，富士原 敏也

地球環境分科会：長谷川 卓，沢田 健，多田 隆治

地下圏微生物分科会：丸山 明彦，砂村 倫成，奈良岡 浩

SSEP 委員：竹内 美緒，安間 了，石橋 純一郎，高井 研

リエゾン：巽 好幸，木下 正高

オブザーバー：石塚 治，仲 二郎

事務局：山田 泰，長橋 徹

欠席者（敬称略）：

道林 克禎，伊藤 慎，亀尾 浩司，稲垣 史生，福井 学，伊藤 孝，  
（林田 明，山崎 俊嗣）

審議内容：

・ 会議前に，書記をどうするかについて，委員がやるのではなく，誰か雇用し  
て対応できないか、J-DESC 事務局で担当できないか，などの意見がだされた。

### 1 ) SSEP 会議報告と問題点の整理

（小原 SSEP 委員よりポツダムで開催された SSEP 会議の報告）

- ・ 全部で 28 件のプロポーザルが審査された。
- ・ 最初から Full proposal で提出されたものは，現状では deactivate されない  
ことになっている。レベルの低い full proposal が提出された場合どうするか，  
について議論された。
- ・ CDP について。SSEP がまず認定や，足りない component の提案などをす  
る。きちんとした定義は公式文書としてないが，SSEP としては，1 ) Initial

Science Plan に沿ったテーマ、あるいはさらに進んだテーマであること、2) 各提案全てが umbrella にとって必要であること。ただし、一つ一つが独立したテーマであることは構わない、3) multi phase & multi platform であること、を重要な基準とする。また、比較的短い時間に終了するものである、という定義もある。SSEP が推薦した後、SPC で正式に認定される。SPC で認定される時点では umbrella だけでよい。

- ・ 新たな Mission の提案( 2 件 )、気候変動&カーボンサイクルと Seismogenic zone。Seismogenic zone について M. Underwood のスライドを紹介：ISP に沿ったものであり、challenging であり、この分野はプロポーザルも多い。Nan Tro SEIZE, CRISP, Smatra, Sagami, Costa Rica, Mission MOHO など総括的に考えてはどうか、という提案。また、技術や予算の点から問題のある CORK, SeisCORK を共通基盤として整備する必要もある。mission は未だ定義が曖昧であり、SPPOC ではプロポーザルの少ない分野の支援的意味合いが強かったが、今回の Seismogenic zone などとは異なる。また、mission になるとどうなるのか、など未だ不明な点が多い。
- ・ 問題点として、今回の IBM 関連など、日本からの専門家が conflict のため審査に参加できなかった点があげられる。

## 2) 今後の SSEP 会議およびプロポーザル対応について

一般的な問題として、日本の提案をサポートする方法を議論した。

- ・ 個々については、評価についての疑問点があれば、正式に watchdog, chair に連絡する必要がある。
- ・ SSEP 委員の選別について、まんべんなく分野を網羅するのではなく、より戦略的に選ぶ必要があるが、実際には 6 回の任期を考慮すると非常に困難。Alternate を活用して、個々の提案毎に検討する必要がある。
- ・ Proponent が J-DESC 提案公募型予算などを利用してワークショップなどを開催するのはどうか。
- ・ Watchdog assignment の変更についても検討すべき。
- ・ Proponent もより広く受け入れられる提案を書く努力が必要である。

\* 部会合意事項：今後は、提案者でかつ SSEP 委員であるものの conflict を避け、他国のように Alternate をもっと活用し、個々の提案毎にきめ細かく対処

していく。

### 3) 次期航海の乗船者推薦方法について

(廣野委員および NanTroSEIZE の Co-chief の 1 人である木下正高氏より、まだ正式決定事項ではないが、大元の募集方法案とそれへの対応案について説明があった)

- ・ 説明者：Stage 1 の USIO, CDEX の 5 航海 ( 1 航海あたり日本人 8 名 X 5 ) の合計 40 名を一括して募集。
- ・ 説明者：第 1 希望から第 3 希望などを申し出てもらい、第 1 希望を優先しながら調整。
- ・ 説明者：1 つの航海に乗船すれば、5 航海分のすべての試料とデータを共有してアクセス可能。
- ・ 説明者：1 つの航海の責任は Co-chief にあり、レポートなどを書くが、PMT(Program Management Team)が研究者の配置、観測・測定などの統一性など全体のプロジェクトを管理する。
- ・ 説明者：既に Co-chief はほぼ決定済み。
- ・ 説明者：乗船研究者募集期間内に乗船希望者を集めてワークショップを開催したいという提案が、国内 proponent から出ている ( 8 月 3 , 4 日予定 ) 。
- ・ 部会委員：上記 WS の際、部会各分科会から 1・2 名はリエゾンとして出席できるように執行部へ要請してはどうか。
- ・ 部会委員：J-DESC が Web (or 説明会)で選考に関わる事項を公開し、J-DESC が All Japan 体制であることを approve する必要があるのではないか。
- ・ 説明者：乗船研究者の J-DESC によるランキングは、proponent & Co-chief の意見 ( 原案 ) を尊重して、審議・承認する。特に selection が公平に行われているかを審査する事が重要。
- ・ 部会委員：希望だけではなく、不都合についての要望も情報として必要ではないか。
- ・ 部会委員：Web 情報については日本語版も必要。
- ・ 部会委員：8 月の公募終了後、9 月には選考を実施する必要がある。
- ・ 部会委員：NanTro SEIZE, IBM, Mohole ワークショップについても、リエゾンで出の場合の旅費について検討を事務局に依頼する必要があるのではないかと。

いか。

\* 部会合意事項：特になし（大元の乗船者公募内容がまだ未確定である。それらを待って、具体的な対応策を審議する。）

#### 4) その他

##### A. 次期 SSEP 委員の公募

- ・ 山崎氏から岩石関係の SSEP 委員を公募すべき，という意見が出された。
- ・ これは前回の部会で審議したことであり、今回の公募は地球物理（古地磁気など）、炭酸塩、微古生物学と決定していることなので、変更はしない方がいい。
- ・ ただし、地球物理（古地磁気など）は地球物理などとしてはどうか。
- ・ その時々 SSEP 会議に対して、SSEP 委員は alternate などを使って戦略的に対応し、SSEP 委員選出に関しては引き続き検討する。
- ・ SSEP 委員の選抜については、これまでに委員がいなかった分野なども検討する必要があるが、依頼を断られるケースも多く、SSEP 委員になるメリットを検討しなければ今後困難ではないか。
- ・ SSEP 会議前に専門部会主催で proponent, SSEP を含めた日本発プロポーザル支援を検討する機会を持ち、SSEP 会議での対応、alternate 等を検討してはどうか。
- ・ 地球物理系の次期委員人選については、小原さんを通し前任者である山崎さんに再確認が必要。

\* 部会合意事項：SSEP 委員の派遣については、部会等で alternate なども考慮しながら戦略的に対応する（上記に同じ）。公募に載せる「地球物理（古地磁気など）」は「地球物理」などとする。

##### B. 提案公募型予算の応募状況について

- ・ 6 / 17 現在で 1 件の応募がある。

##### C. その他

- ・丸山部会長に次回の SSEP 会議（11/13-16, 札幌）へのオブザーバーとしての出席を依頼したい。
- ・ 前回，ポツダム会議ではアメリカのマイノリティーの大学院生が参加した。次回の札幌会議では，試験的に北大の学生の参加を検討してはどうか。
- ・ SASEC は， Borad of governer も加えて 4（米），4（日），2（EU）となった。日本からは巽好幸氏（海洋研究開発機構），木村学氏（東京大学），河野長氏。